薦を敷く遺風也、土器に食物を盛るも古風の傳りたる也、

〔堤中納言物語〕よしなしごと

たびのぐに、しつべきものどもやはんべる、かさせ給へ、略○中たま江にかるまこもにまれ、あふ事かたのゝはらにある、すがごもにまれ、たゞあらんをかし給へとふのすがごもなたまひそ、

薦製作

〔延喜式三十掃部〕薦一枚、長二丈四尺、廣四尺、長功一人、中功一人少半、短功一人大半、

薦一枚、長三丈、廣三尺、長功一人、中功一人少半、短功一人大半、

〔延喜式二十主計〕凡左右京五畿內國調、一丁輸錢、隨時增減、其畿內輸雜物者、○中略三丁○中略葉薦五枚、長二丈、廣四尺、○中略

凡中男一人輸作物、○中略葉薦一枚、長二丈、廣四尺、○下略

薦種類

〔法隆寺伽藍緣起并流記資財帳〕合通分雜物參拾伍種○中略

蒲薦壹拾枚

〔今昔物語二十〕義紹院不知化人被返施悔語第四十

今昔、義紹院ト云僧有ケリ、元興寺ノ僧トテ、止事无キ學生也、其レガ京ヨリ元興寺ニ行ケルニ、冬ノ比也、泉川原風極テ氣惡ク吹テ寒キ事无限シ、夜立ノ杜ノ程ニ行ケルニ、墓ノ隱レニ藁薦ト云フ物ヲ腰ニ卷テ低レ臥セル法師有リ、

〔倭訓栞中編十一〕すがごも　續古今集、濁り江に生るすがごもとよめり、菅と菰と二項なるべし、

〔倭訓栞前編十八〕とふのすがごも　目を十に編たる菅薦也といへり、よて海道記に七編のこもむしろと書たり、一說にかや筵なれば、簀茅薦の義也といへり、されば、ふは封字の義成べし、今も俵などに一のふ二のふなどいへり、又節の略にや、日本紀の歌に、八ふの柴垣とも見え、古事記には、みこの柴垣やふじまりともいへり、彌節じめの意也、今も垣を結には、幾ふしなどいへり、其薦